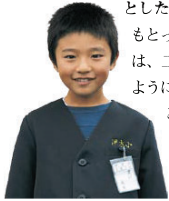


せんそうの話

今日、せんそうのビデオを見て、せんそうにいくのになんでよろこぶのだろう、なんでにこにこなるのだろうと思った。どうして原子ばくだんをおとすのだろうと。朝早く広しまにおとしたのだろう。心の中で、なぜ原子ばくだんをおとすひつようがあるかわからない。なぜばくだんをおとしたいのか。ぼくは、とつてもとつても知りたいたいです。ぼくは、二どとせんそうがおきないようにしてほしいです。ぼくはこんどから、人のいやがることをしません。



伊方小学校2年 吉村 光希くん



「未来へつなぐ 私たちの人権」

金田中学校3年 福田 夏乃さん

平和学習を終えて

伊方小学校4年 星石 夢美さん

原爆かやヒロシマについてのビデオを見た時、戦争についての写真を見たりしました。私は、原爆く、とでも若い人たちもなくなっていること、1年間の中でまだ5000人ぐらいの人たちがなくなっていること、子どもでも働いて、お母さんたちとはなればなれになったことなど、初めて知りました。やっぱり、そんな悲しいめにはあいたくないし、自分や家族が戦争にまきこまれ、家族とはなればなれの生活になるのが一番いやです。

私は、平和を守るために、今日勉強したことを忘れずにいます。そして、いろいろな人にも伝えて、みんなに知ってもらいたいと思います。「戦そうをしない」じゃなく、自分たちで平和をつくっていくことが大事だと思いました。



「みんなの笑顔 世界に花を咲かせる」

金田小学校6年 辰島 涼香さん



「大きくそだてて 人けんの花ひまわり」

上野小学校3年 白井 魁夢くん



「ありがとう 人をつなぐやさしい言葉」

上野小学校4年 香月 小波さん



『転入生』を勉強して

わたしは『転入生』の勉強をして、はじめくんと同じように自分の考えを伝えられなかったことがあったので、自分の言いたいことはちゃんと伝えなければいけないと思いました。

このお話しで、ちこくをよくするはじめくんは、クラスの友だちから『転入生ちこくするな』とか『もとの学校に帰れ。』とかしつこく言われて、すごいやな気持ちだったろうなと思いました。はじめくんは妹のお世話や、食事のじゅんびなど、家族のためにいろいろしているのに、ちこくをしていることだけであんなひどいことを言う同じクラスの人はひどいと思いました。もしわたしだったら、はじめくんがちこくしたら理由を優しく聞いてあげたいと思います。理由がわかったら「なんでちこくしたん」と友だちがいても、はじめくんのかわりにいってあげられるからです。

学級会が成こうして、はじめくんの学級でも少しでも早く、はじめくんのいい所がわかって、クラスみんなが仲よくなれたらいいなと思いました。

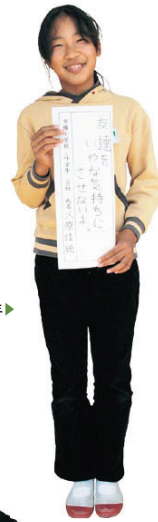
弁城小学校4年 香月 海優さん



11月15日、伊方小学校で人権擁護委員による人権授業が行われました。1～2年生がアニメを見ながら楽しく学び、人権についての理解を深めました。

「友達をいやな気持ちに、させないよ。」

市場小学校4年 久原 佳純さん



「みんなみんな友だち」

市場小学校4年 大島 雅揮くん



「助け合い 支え合い」

赤池中学校2年 藤重 拓くん



戦争を繰り返さないために

第二次世界大戦から62年という長い月日が経った。この戦争で日本はアメリカから原子爆弾を落とされたことは私も知っている。この原子爆弾のせいで、莫大な死者が出たの知っている。

毎年8月になると学校で平和学習をする。小学校のころから9年間この取り組みをしてきた。被爆者の写真や被爆体験者についてのビデオなどを見て『戦争』というものの大体のイメージはある。しかし、戦争を知らない私たちにとって、それは曖昧なものでしかない。

たぶん戦争を体験した人々にとっては忌まわしい過去の記憶であり、今でもその記憶は微塵も薄れることなく、心のどこかをさまよっているかもしれない。しかし、私たちはそれを知らない。『戦争』そのものの苦しみや辛さを知らない。だから私たちは、『戦争』を軽々しく口にするのできるのだろう。

現在、日本は『戦後』ではなく『戦前』であると聞いたことがある。それはつまり、『戦争』というものが私たちにとって、それほど遠い存在ではなくなってきたということではないだろうか。もし、そうならばその『戦前』という言葉の意味に私たちが戦争を知らない世代がしっかりと向き合っていくべきではないだろうか。中には戦争に賛成する人もいるかもしれない。だけど、考えがいいのか悪いのか私には分からない。ただ、また何年後、何十年後に戦争という悲劇を繰り返してしまったら、62年前から何が変わることができたのだろう、と疑問だけが心に残ると思う。

今も世界中で戦争や紛争が起こっている。私たちと同じぐらいの年齢の子どもが銃を持って戦っていると思うと信じられない。そんな風に戦っている人たちがどんな気持ちで戦っているのかなんて、きっと戦争を体験した人には理解できないのだろう。

終戦から62年がたち、何がかわり、何を学んだのか、そして、日本が同じ過ちを繰り返してしまわないために、私たち一人ひとりが『戦争』について考えていくことが、これからの私たちの課題だと思います。

方城中学校3年 朝部 美香さん



小中学生の思いを紹介 人権ポスター・標語・作文

12月4日(水)～10日(火)は人権週間です。

命と人権の花を咲かせて。

人が生まれながらに持つ「生きる権利」そして「人権」。福智町の小中学校8校では、人権学習・平和学習に積極的に取り組んでいます。普段の学校生活の中で、命の大切さ、思いやりの心、善悪の判断などを子どもたちが自ら考えて行動する…。人としての最も大切な視点を芽生えさせる習慣を大切にしています。